

△宇部市百年新聞

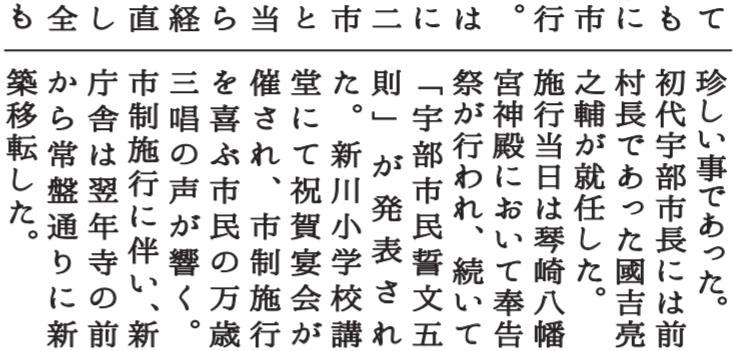
100th Anniversary

宇部市誕生

（一九二二年十一月一日）

厚狭郡宇部村が村制から町制を経ずに市制施行

明治以降石炭産業が急増し、発展して活発になり、厚狭郡宇部村の人口は急速に増加、発展して一挙に市制を施行するに値するに至った。これにともなう、厚狭郡宇部村が村制から町制を経ずに市制施行することになった。これは全国的にも珍らしい事であった。初代宇部市長には前村長であった國吉亮之輔が就任した。施行当日は琴崎八幡宮神前において奉告祭が行われ、続いて「宇部市民誓文五則」が発表された。新川小学校講堂にて祝賀宴会が催され、市制施行を喜ぶ市民の万歳三唱の音が響く。市制施行に伴い、新庁舎は翌年寺の前から常盤通りに新築移転した。



常盤公園開設

（一九二五年）

渡辺祐策らが常盤湖畔の土地を購入し市に寄贈

渡辺祐策ら、常盤湖畔の土地を購入し市に寄贈した。公園は当時から現在も散歩やジョギングコースとして親しまれている。常盤公園開設の経緯は、渡辺祐策らによる土地の寄贈と、市による整備によるものである。公園の開設は市民の憩いの場となつた。



宇部電気鉄道開通

（一九一九年）

宇部小野田間

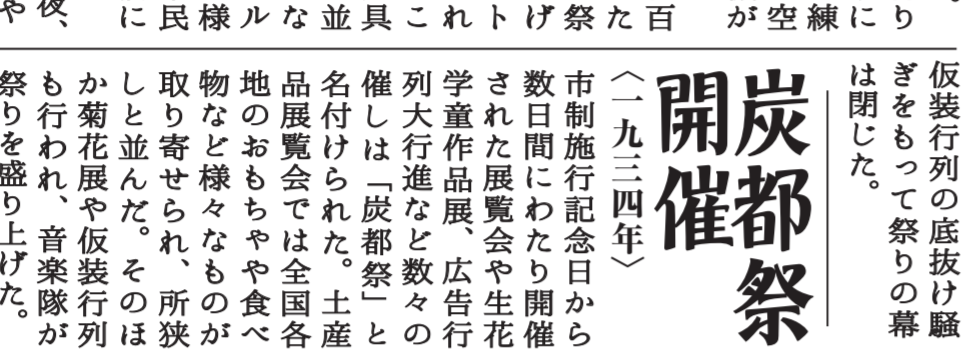
宇部電気鉄道開通の経緯は、当時の発車ごとに満員になるほど詰り、平均利用者は一日千人を超えた。宇部市で最初の花火大会開催（一九二八年）もこの頃である。

石炭祭開催

（一九三五年）

「宇部まつり」の原型 市内は歓喜の渦に

炭祭を改称し石炭祭の恩恵に感謝して開催された石炭祭。市制施行記念日である十一月一日、市街は華やかに装飾され、火が打ちあげられ、中津瀬神社で商工会議所主催の式典が行われ、第一回石炭祭が幕を開けた。その後、山車が繰り出され、隊列が練り歩き、市街を練り歩く。そして上空では祝賀の飛行機が乱舞した。また数十店舗、約百五十名が参加した「広告行進隊」も祭り盛り上げに力を注いだ。ロケットや荷車等それぞれ工夫を凝らした大道芸も行進し、並んで行進した。その様子は新聞に掲載された。最終日の夜、シヤギリ隊や



炭都祭開催

（一九三四年）

市制施行記念日から数日間をわたり開催

炭都祭開催の経緯は、市制施行記念日から数日間をわたり開催された。炭都祭は、炭産地としての誇りを示すとともに、市民の憩いの場となつた。

宇部港完成

（一九三三年）

大型船の接岸可能に

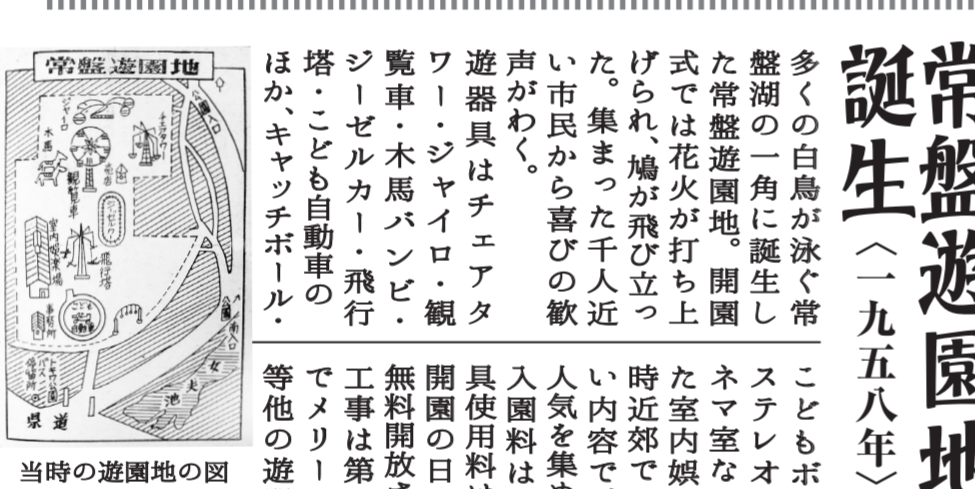
宇部港完成の経緯は、大量の石炭を運搬できる大型船が接岸できるようになる。一九三三年に完成した宇部港は、石炭産業の発展に大きく貢献した。

渡辺翁の遺徳を記念 渡辺翁記念会館竣工

（一九三七年）

宇部市発展の基礎を築いた渡辺翁の遺徳を記念して

渡辺翁の遺徳を記念して、渡辺翁記念会館が竣工した。渡辺翁は宇部市の発展に大きく貢献した人物である。

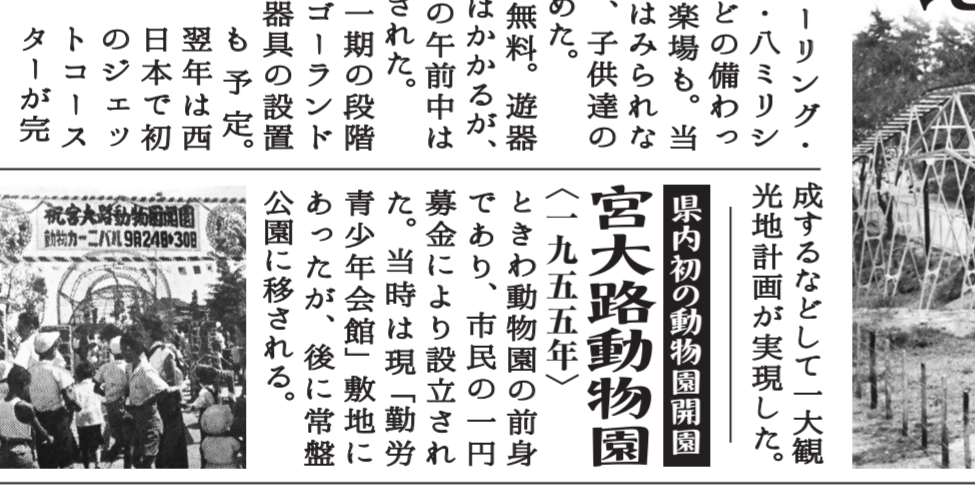


常盤公園に夢の樂園 誕生

（一九五八年）

多くの白鳥が泳ぐ常盤湖の一角に誕生

常盤公園に夢の樂園誕生の経緯は、多くの白鳥が泳ぐ常盤湖の一角に誕生した。この樂園は市民の憩いの場となつた。



宮大路動物園

（一九五五年）

ときわ動物園の前身

宮大路動物園の経緯は、ときわ動物園の前身として設立された。現在は市民の憩いの場となつた。

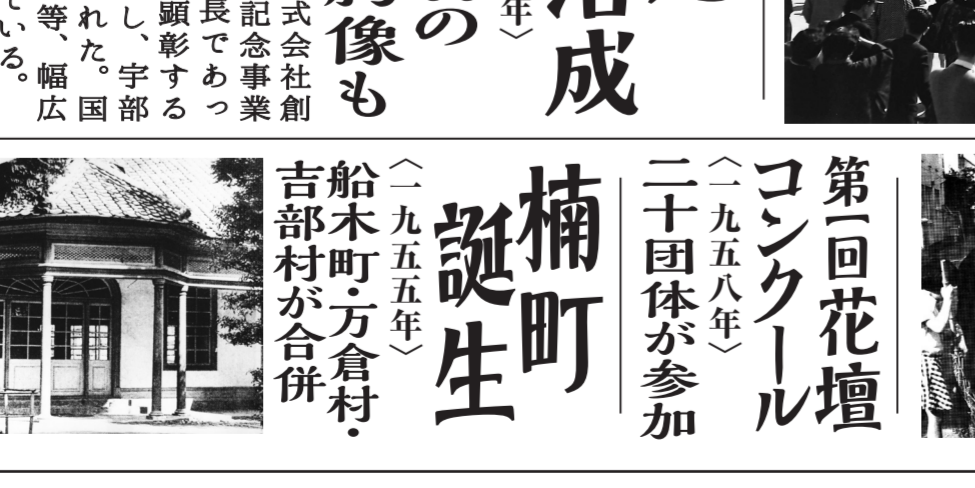


石炭祭復活

（一九五二年）

戦後七周年にして市制記念日を協賛する

石炭祭復活の経緯は、戦後七周年にして市制記念日を協賛する。復活した石炭祭は市民の憩いの場となつた。



依田翁記念 依田翁の胸像も

（一九五九年）

宇部興産株式会社創立六十周年記念事業

依田翁記念の経緯は、宇部興産株式会社創立六十周年記念事業として、社長であった依田翁を顕彰する。胸像も設置された。



花いっぱい運動

（一九五五年）

市民運動始まる

花いっぱい運動の経緯は、市民運動始まる。市民は積極的に花を育て、街を美化した。

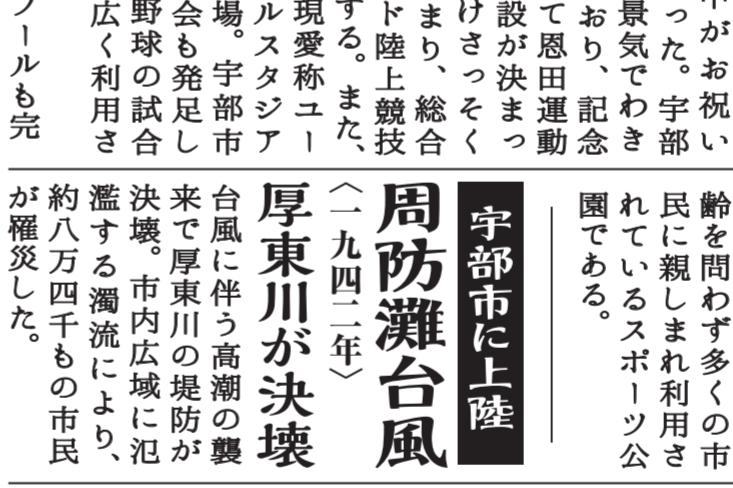


恩田運動公園完成

（一九四一年）

陸上競技場が登場

恩田運動公園完成の経緯は、陸上競技場が登場した。この公園は市民の憩いの場となつた。



宇部市における スポーツの拠点に

（一九四一年）

成り、一九六三年の第十八回国民体育大会

宇部市におけるスポーツの拠点にの経緯は、成り、一九六三年の第十八回国民体育大会が開催された。宇部市はスポーツの拠点となつた。

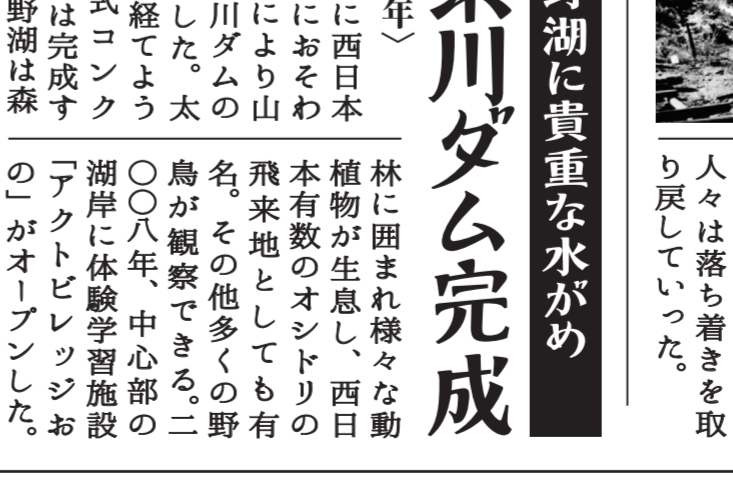


宇部興産株式会社設立

（一九四二年）

沖ノ山炭鉱 宇部窒素工業 宇部セメント製造 宇部鉄工所 四社が合併

宇部興産株式会社設立の経緯は、沖ノ山炭鉱、宇部窒素工業、宇部セメント製造、宇部鉄工所が合併した。この会社は宇部市の産業の発展に大きく貢献した。



太平洋戦争 宇部大空襲

（一九四五年）

工業都市である宇部市は計八回の爆撃を受ける

太平洋戦争 宇部大空襲の経緯は、工業都市である宇部市は計八回の爆撃を受ける。戦後、市街地の大半は焼野原となり、復興に多くの犠牲者を出した。戦後、土地の整理や公営住宅の建設、エネルギー源の増産が行われ、市民生活が回復した。



厚東川ダム完成

（一九五〇年）

一九三九年に西日本は大干ばつにおそわれる

厚東川ダム完成の経緯は、一九三九年に西日本は大干ばつにおそわれる。このダムは水害の防止と灌漑のために建設された。



小野湖に貴重な水がめ

（一九五〇年）

林に囲まれ様々な動物が生息

小野湖に貴重な水がめの経緯は、林に囲まれ様々な動物が生息する。この湖は自然の宝庫である。



第一回花壇コンクール

（一九五八年）

二十団体が参加

第一回花壇コンクールの経緯は、二十団体が参加した。このコンクールは市民の憩いの場となつた。



楠町誕生

（一九五五年）

船木町・方倉村 吉部村が合併

楠町誕生の経緯は、船木町、方倉村、吉部村が合併した。この町は市民の憩いの場となつた。

